

令和3年度事業報告書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1 事業の状況

今年度も、コロナウイルスの影響で、平安書道研究会の開講が毎回綱渡り状況のまま推移した。また、平安書道研究会の受講生の新規募集や例会への出席率、連合書道展及び関東女流書展への出品点数などが全体に低下し、収益など多くの点で影響が顕著であった。

1. 書道文化の普及（第4号事業関係）

(1) 書道文化の普及のための春敬記念書道文庫収蔵品の貸し出し

1. 平安書道研究会（主催：一般社団法人書芸文化院）令和3年4月～令和4年3月

毎月1回、第853回～第864回を実施した。各回テーマに沿った古筆を5～6点ずつ露出展示。毎回出席者が少なくなった分、受講生はじっくり観賞できるというメリットもあった。

2. 第60回現代かな書道専門講座（主催：かな書道作家協会）令和3年4月29日

伝小野道風筆「本阿弥切」、伝藤原佐理筆「筋切」など5点の貸し出し。

3. 開館40周年記念特別展「書之美、書の価値～つたえるということ～」

（主催：春日井市道風記念館）令和3年9月11日～10月3日

空海筆「金剛般若経開題断簡」、小野道風筆「絹地切」、「紫紙金字金光明最勝王経」など8点を貸し出し。

(2) 写真の掲載許諾

1. (有)書芸文化新社発行の『古筆カレンダー2022年』に伝源俊頼筆「卷子本古今集切」、藤原基俊筆「山名切」、藤原定家筆「歌合切」など6点のカラー掲載を許諾。

2. 一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術2022年1～12月号』の表紙写真として伝藤原公任筆「業平集切」及び『みんなの書2022年1～12月号』の表紙写真として、楊峴筆「隸書五言対聯幅」の掲載を許諾。

3. 一般財団法人日本書道美術院発行の『書道美術2022年1月号』の王羲之「十七帖」、「蘭亭叙」、など6点の掲載を許諾。

4. 東京書籍発行の高校書道教科書『書道I』（令和4年4月発行）に藤原佐理筆「国申文帖」伝空海筆「隅寺心経」2点の掲載を許諾。また、同教科書に付随する指導書・デジタル媒体への使用も許諾。

5. 教育出版発行の高校書道教科書『書道I教授資料』（令和4年3月発行）伝空海筆「隅寺心経」の掲載を許諾。

6. 現日会発行の「現日書展講演会講演録」に伝藤原行成筆「古今集切」の掲載を許諾した。

7. 讀賣新聞夕刊（令和3年11月16日）の「日本史アップデート」記事に、伝西行筆「未詳歌集切」の掲載を許可。

2. 書道に関する展覧会の開催（第5号事業関係）

(1) 「第72回連合書道展」、「第35回関東女流書展」の開催

書道の奨励・育成を目的にした「第72回連合書道展」を令和3年9月1日より8日まで東京都美術館において開催した。参加団体は12団体。総出品点数は467点（前回471点）。

観客入場者数3149名（前回4240名）であった。今年度も席上揮毫を行わなかった。

また、特別企画として、「第35回関東女流書展」を開催した。関東地方を代表する女流書家による展覧会で、漢字・仮名・新書芸などの各部門に188点（前回198点）の出品があった。

連合書道展の一環として行っている平安書道研究会受講生による第4回「臨書コーナー」は15点（前回19点）の出品があり、令和3年度が第1回となる「学生部展」は25点の出品となった。

令和3年度の新企画として、東京都美術館講堂を会場に外部講師による講演会を聴講料2000円で開催した。講師は名児耶明先生で演題は「飯島春敬コレクションの意義」、約100名の聴衆を集めることが出来た。これは書道展だけでなく、広く書道の普及に努めるという東京都美術館での開催趣旨にも合致し、同時に展覧会来場者への書道への関心醸成の一助にもなると考え、令和3年度より実施することにした。

3. 書道専攻者の養成（第7号事業関係）

(1) 平安書道研究会の開催

昭和25年から、毎月1回古筆を出陳して鑑賞し、日本書道史研究に必要な専門的内容を学ぶ平安書道研究会を開催。令和2年度3、4月及び令和3年度5月の3回が開催不能となり、その分の補充を「特別聴講券」として該当する受講生への配布を行った。この「特別聴講券」は該当する本人以外への譲渡も可能とし、周辺への拡大も意図したのだが、一部の受講生の中に、この聴講券をかき集めて受講する者がいた。

「臨書実技講座」は令和3年9月26日に慶徳紀子先生と大賀晴苑先生、渡辺貴彦先生の3名の講師により、受講生25名で実施。平安書道研究会での添削指導とは違った指導を受けることが出来、毎回好評である。

平成30年5月に入学した第62期生42名が令和3年4月に3か年の全課程を終えて卒業した。令和3年度の第65期入学生は18名であった。今期も、コロナの影響で思うように募集が進まず、その上に在校生の進級も進まず全体に低調に終わった。

4. その他

(1) ホームページの充実

ホームページの認知度も上がり、受講生からの反応も目立つようになった。今後も内容のより充実を図り、受講生のみならず一般への重要なPR用ツールとして活用していきたい。

URLは <http://shogeibunkain.jp/> である

(2) 講師の先生を囲む会の開催

昨年に引き続き、今年度もコロナの影響を勘案し中止にせざるを得なかった。

以上